

上越市まち・ひと・しごと創生推進協議会 令和元年度第3回総会  
議事要旨

日時：令和元年12月5日（木）14：00～15：40

会場：木田庁舎401会議室

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

(1) 上越市まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（改訂版）（案）について  
・事務局から資料1について説明を行った。

(2) 第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）について  
・事務局から資料2、3について説明を行った。

→第2期上越市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）の内容について協議会  
として了承いただいた。

4 その他

・今後のスケジュールについて説明。

→手続きを進めていく中での修正等は、事務局に一任させていただくことで  
了承いただいた。

5 閉 会

発言要旨

（上越商工会議所 板垣理事・事務局長）

・戦略の本編として資料2のP11の記載の形になることは理解できるが、説明  
資料のP14のように記載してもらえればわかりやすい。

・製造業に特化するだけでなく、若者が望む仕事をどうやって確保していくかが  
必要。

・商業、農業、海洋水産関係の高校の会議に出席したが、高校生の就職率は2年

続けて 100%だが、製造業、建設業に就職した人の離職率が高いとのことであった。そういった観点も必要ではないか。

(上越市企画政策課 藤村係長)

- ・総合戦略の性質上、文章で記載させていただいた。これから普及していくにあたって本編だけでなく、普及版というイメージでわかるようなものを作成し、市民、特に若者に周知していきたい。それも踏まえて記載を工夫できないか検討したい。
- ・資料 2 の P14 「②多様な雇用機会の創出」の中に「若者・子育て世代の様々な求職ニーズに対応するため、情報通信業など多様な産業分野の雇用創出に向けた取組を推進していく」との記載があるためこちらで進めていきたい。一方でものづくり産業は地域の中で非常に大きなところを担っている。また、魅力的な企業があまり知られていないところもある。両方平行して進めていくべきと認識している。

(上越商工会議所 秋山庶務係長)

- ・『若者・子育て世代にとって「選ばれるまち」「住み続けたいまち』を目指していくとなっていて、資料 2 の P43 の数値目標「今後も上越市に住み続けたいと感じる 20 代・30 代の市民の割合」を上げていくということは理解できる。資料 1 の P18 の「今後も、上越市に住み続けたい」という項目の数値は減ってきているが全体として減っていて、若者世代も減っている可能性もあると思う。全体の数値を向上させていくのが、総合戦略の目標ということでよいか。
- ・当協議会に参画している各団体においてこの総合戦略をどう事業にいかしていくと考えているか。

(上越市企画政策課 藤村係長)

- ・今後も上越市に住み続けたいと感じる 20 代・30 代の市民の割合について、今手元に具体的な数値は無いが、全体的に減少している。今回はその減少のトレンドを上向きにしていきたいという意図で設定しており、認識のとおりである。

(上越商工会議所 秋山庶務係長)

- ・現在の上越市と人口が同規模の自治体との比較や、令和 27 年には約 14 万人と推計されているので 14 万人程度の自治体との比較があると面白いのではな

いか。

(えちご上越農業協同組合 山岸総務部長)

- ・説明いただいた内容について質問はない。
- ・限られた経営資源の中で費用対効果を考えたときに参加いただく住民、職員、構成員がベクトルを合わせる必要があると感じた。

(上越公共職業安定所 長谷川次長)

- ・資料2のP19の数値目標で「34歳以下の就職率」とあるが、就職率は雇用情勢に影響される。何らかの要因で雇用情勢が変わってきた場合、正しく施策の数値として出るのであるかが疑問。

(上越市企画政策課 藤村係長)

- ・雇用については経済状況が影響することは認識している。状況を見ながらこの数値が適切に反映されているかどうか進捗管理をしていく中で分析していきたい。

(上越地域振興局 齋藤企画振興部長)

- ・人口減少などの現状、アンケートを踏まえて総合戦略を的確にまとめられている。
- ・資料2のP16にある担い手づくりに注目している点はそのとおりだと考えている。
- ・資料2のP18の8つの視点が掲げられているが、的確にまとめられている。
- ・振興局としてもできる限り協力させてもらいたい。

(上越教育大学 永井研究連携課長)

- ・各部会の検討結果についてよく取りまとめられている。
- ・KPIの指標でもSNS等を活用した情報発信を取り入れられており、大変よく検討されている。
- ・大学との連携についても今回新たにKPIに取り入れられている。こういったKPIを設定してもらえると励みになる。今後も市と連携し地域が活性化されるように取り組んでいきたい。

(県立看護大学 長谷川副学長)

- ・KPIの数値目標は具体的に挙げてあり、非常に多岐に渡っている。そして共通する部分が多くある。

- ・KPI の数値目標に近づくには、市民が同じ方向を向いて取り組まないと達成できない。

- ・ある資源をどううまく生かすか、限られた予算の中でどうやって持っていくのか見える化しないと絵に描いた餅で終わってしまう。

(県立看護大学 吉澤教務学生課長)

- ・今回の資料については特に言うことはない。

- ・結婚・出産・子育て部会に参加し、各団体と意見交換させていただいた。今後本学で取り組む事業でその経験を生かしたい。

(上越信用金庫 中條総合企画部副部長)

- ・提案いただいたビジョン、総合戦略はよくまとまっている。

- ・特化した業種も含めて企業の課題を解決するために、金融機関として注力していくことが成長促進につながり、総合戦略の KPI に寄与するのではないかと感じた。

- ・女性が出て行ったきり戻ってこない。女性が活躍する場が当市ではなかなか見当たらない。ただ、子育てしやすい環境はアンケートの結果から見るといいので、この辺りのギャップを埋めることが大事ではないか。

- ・自然な出逢いの場づくりといった観点では、多業種の企業と取引があるので、そういった接点を生かして協力していきたい。

- ・担い手づくりの観点から、高校生とその親へのアプローチについてもこちらでできることを探していきたい。地域を知ってもらう取組をコラボでできればいいと思う。

(連合新潟上越地域協議会 早川事務局長)

- ・今日説明のあった内容については特に言うことはない。

- ・家庭の収入に状況にとらわれず、教育が受けられて仕事ができる、出産・子育てをしながら仕事ができる、また病気になっても復帰して働けるということが大切である。そういった不安を若い世代から取り除いていくことが必要。

- ・高齢であっても働いていけるといったことも重要。

(上越市町内会長連絡協議会 熊木副会長)

- ・今回提示のあった案について異論はない。

- ・市から地域は地域で守るといった意識づくりをもっとしてもらった方がよい。

(上越市企画政策部長 池田部長)

- ・当市は人口減少の傾向に歯止めがかからない状況にあるが、市税の状況を見ると一人あたりの税収は上がっている。こうしたトレンドを維持していくために様々な取組を実施していく。また、上越市に住む方々が希望を持って住み続けられるまちを目指していきたいということで施策をまとめさせていただいた。
- ・総合戦略は実践を想定してまとめたところだが、産・官・学・金・労・民の各主体が主体的になってどのようなことに取り組むことができるか、そのことによってどのような形で地域に貢献できるかという視点をもって今後とも取り組んでいただきたい。その取組が円滑に進むように総合戦略を基に市としても様々な取組を進めていきたい。